

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019

ASEAN 招へい第 23 陣

テーマ：日 ASEAN 学生会議

対象国：ASEAN10 各国，東ティモール

外務省が推進する「対日理解促進交流プログラム JENESYS2019」の一環として、2020年2月9日から2月18日まで、ASEAN 加盟 10 各国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）と東ティモール合計 11 各国の各国の大学生 131 名が訪日します。

本招へいでは、「平和と安定のために日本と東南アジア諸国の青年ができること」を共通テーマにしつつ、日本とアジア諸国に共通する諸課題の内、「観光公害と持続可能な観光開発」、「移民労働者」、「質の高い教育」、「食品ロス」、「防災意識」の 5 つのテーマ毎にグループに分かれて、東京都に加えて京都府、愛知県、大阪府、または宮城県を訪問し、関連講義の聴講、関連施設の視察、学生会議等を実施します。課題に対する解決・改善策に向けての意見交換を通じて、アジア及び日本社会にどのように貢献できるかを考え、学生間の相互理解を深めるとともに、対等な立場で課題解決に向けた協働可能なネットワークを形成・維持し、その実現を目指します。さらに、地方訪問時には伝統文化等の視察・体験を行い、日本の文化・伝統、生活様式等の理解を深める機会を持ちます。

今回の交流事業を通じて、日本とASEAN 諸国及び東ティモールの関係が強化されるとともに、一行が日本の魅力等を積極的に発信することが期待されます。

[参考 1]対日理解促進交流プログラム「JENESYS2019」

日本とアジア大洋州の各国・地域との間で、対外発信力を有し将来を担う人材を招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史、外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充することを目指している。

【グループ】

A: 観光公害と持続可能な観光開発, B: 外国人労働者,
C: 質の高い教育, D: 食品ロス, E: 防災意識